

# 平成28年熊本地震からの復旧・復興レポート

## ～熊本の「美味しいもの」と共に～



弁護士知財ネット・農水法務支援チーム  
弁護士 榎 崇文（熊本県弁護士会）

### 第1 平成28年熊本地震

#### 1 「前震」と「本震」

平成28年4月、私が住む熊本県は、2度の最大震度7の地震に見舞われました。

4月14日午後9時26分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生し、熊本県益城町で最大震度7を記録、熊本市内でも震度6弱を記録した地域がありました。私は外出先で地震に遭い、すぐに家族へ連絡しようとしたものの、電話回線が混雑してつながらず、急いで帰宅して家族の顔を見て安堵したことを鮮明に記憶しています。

気象庁の会見では、今後しばらくは「余震」が発生する可能性が高いため注意するよう呼びかけがされていたところ、4月16日午前1時25分には、同じく熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、熊本県益城町は再び震度7を記録、熊本県西原村でも震度7を記録しました。まさか「余震」で前回よりも大きな規模の地震が発生するとは思ってもみませんでしたので、非常に驚きました。後に4月14日の地震が「前震」、4月16日の地震が「本震」と発表され、「前震」なる概念があることを初めて知りました。

その後も余震は続き、震度1以上を観測する地震が4596回発生しました（平成31年4月10日現在。内閣府発表。）。



【写真1-1】本震直後の益城町  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：益城町）



【写真1-2】本震から1か月後の益城町  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：益城町）

## 2 被災状況

内閣府の発表（平成31年4月10日現在）によれば、平成28年熊本地震（以下「熊本地震」といいます。）における人的被害は、死者273名（うち熊本県270名）、重傷1203名（同1184名）、軽傷1606名（同1553名）、建物被害は、住家全壊8667棟（うち熊本県8657棟）、住家半壊3万4719棟（同3万4491棟）、住家一部損壊16万3500棟（同15万5095棟）となっています。また、宇土市役所等の公共建物も倒壊等の被害に遭い【写真1-2】、被害棟数は467棟となっています。

また、熊本市内から阿蘇方面へ向かう国道57号線とJR豊肥本線は立野地区の大規模土砂崩れにより寸断され、南阿蘇方面へ向かう阿蘇大橋は崩落するなど、インフラにも甚大な被害をもたらしました【写真1-2】。阿蘇地方はインバウンドをはじめ観光客が減少し、観光業に大打撃を与えました。



【写真1-3】地震直後の宇土市役所  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：熊本大学）



【写真1-4】地震直後の阿蘇大橋付近  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：南阿蘇村）

3 本稿では、その中でも、被災した日本三大名城の一つと数えられる熊本城、世界最大級のカルデラを有する阿蘇山の麓にある阿蘇神社、熊本県の特産品である馬刺しを製造する馬肉加工卸売会社などの復旧・復興に向けた状況、取組、携わる人の声などをレポートするとともに、被災地にまつわる「美味しいもの」をご紹介します、熊本の魅力をお伝えします。

## 第2 「熊本城」と「辛子蓮根」

### 1 日本三大名城の一つ「熊本城」

日本三大名城の一つとして数えられ、熊本のシンボルでもある熊本城も被災し、その様子は全国で報道されました。

熊本城は、熊本市域のほぼ中央に位置する京町台地の南端に位置し、豊臣秀吉の家臣であった加藤清正により、関ヶ原の戦い（1600年）よりも前から築城がはじまり、1607年には本丸が完成したとされています。周囲5.3km、総面積98haに及ぶ広大な城郭で、宇土櫓をはじめ13棟の建造物が国の重要指定文化財に、51.2haが特別史跡に指定されています。熊本城の石垣は反りをもった急な勾配が特徴的で、「武者返し」とも呼ばれています。

### 2 熊本城の被災状況

熊本城の天守閣は、西南戦争開戦直前の1877年2月19日に火災により焼失し、昭和35年に鉄筋コンクリート建造物として復元されていたため、建物自体の損傷は小さかったものの、最上階の

瓦がほとんど落ち、小天守内側の石垣は大半が根元まで崩落してしまいました。

また、築城当時から現存する唯一の多重櫓（3重5階櫓）である宇土櫓は、壁の漆喰や床などが破損し、続櫓は建物が倒壊しました【写真2-1】。また、飯田丸五階櫓は、石垣が崩落し、一時、南東石垣のみで五階櫓を支える状態となっていました（この状態は「一本石垣」と呼ばれました。）【写真2-2】。このほか、多数の櫓の倒壊・損壊、石垣の崩落があり、紙幅の都合上、被災状況を詳らかにご報告できませんが、シンボルでもあった熊本城の被災状況を目の当たりにし、非常に愕然としたものでした。



【写真2-1】地震直後の熊本城宇土櫓  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：熊本大学）



【写真2-2】地震直後の熊本城飯田丸五階櫓  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：熊本大学）

### 3 熊本城の復旧状況

熊本城の復旧・復元には長い年月と莫大な費用を要することが見込まれ、「熊本城災害復旧支援金」や「復興城主制度」（ご寄付頂いた方に「城主証」「城主手形」を発行し、デジタル芳名板に「復興城主」として名前が掲載されます。）により、多大なご寄付・ご支援を得ながら、復旧工事が進められているところです。前出の天守閣、宇土櫓、飯田丸五階櫓も復旧に向けて工事が進められています。

石垣については、崩落した石を回収し、一個一個に番号を振って、同じ石を用いて復元をしています。

熊本地震前の姿に戻るには時間がかかりますが、熊本市は、復旧に係る具体的な方針、施策及び取組を体系的に定め、熊本城の効率的・計画的復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めるための「熊本城復旧基本計画」も定めています。

熊本県民としては、熊本のシンボルでもある熊本城の一日でも早い復旧・復元を待ち望んでいます。



【写真2-3】天守閣の復旧工事  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：熊本県）

### 4 熊本藩主のために作られた「辛子蓮根」

この熊本城に縁のある熊本の郷土料理が「辛子蓮根」です。蓮根の穴の中に辛子味噌を詰め込み、衣を付けて油で揚げてつくる料理です【写真2-5】。サクッとした歯ごたえ、独自に調合さ

れた辛子味噌がツーンと鼻を刺激し、食欲増進、鉄分補充、栄養豊富な郷土料理として親しまれています。暑い夏にうってつけの酒の肴です。

熊本藩主の加藤家が改易させられた後の1632年に細川忠利が熊本藩主になり熊本城に入城しました。この辛子蓮根は、病弱であった細川忠利のために、熊本城の賄方が作成し、細川忠利に献上したといわれている料理です。蓮根を輪切りにした断面が細川家の家紋（九曜紋）に似ていることから、門外不出の料理とされていたともいわれています。

現在では、熊本県辛子蓮根協同組合により、「熊本名産からし蓮根」という地域団体商標登録もされています（登録番号第5030806号）。



【写真2-5】辛子蓮根

### 第3 楼門が倒壊した「阿蘇神社」と「あか牛」

#### 1 阿蘇神社

前出の阿蘇大橋からさらに北東にある阿蘇市一の宮町。ここに、日本の初代天皇神武天皇の孫神にあたる健甕龍命（たけいわたつのみこと）を主祭神とする「阿蘇神社」（創建は紀元前282年）があります。全国に約500社ある阿蘇神社の総本山で、正月や火振り神事、御田祭などには県内外から多数の方が訪れています。この阿蘇神社には、鹿島神宮（茨城県）、宮崎宮（福岡県）の楼門とともに、日本三大楼門の一つに数えられる高さ18mの楼門（【写真3-1】）のほか、5つの国の重要文化財に指定されている建造物が存在していました。しかし、楼門は【写真3-2】のとおり全壊し、それ以外の建造物も半壊あるいは一部損壊となりました。



【写真3-1】地震前の楼門（提供：阿蘇神社）



【写真3-2】地震直後の楼門（提供：阿蘇神社）

## 2 記録化の重要性

熊本地震直後から、阿蘇神社の復旧過程を動画で撮影し続けている、同じ町内に住むビデオグラファーの中島昌彦さん（38歳）【写真3-3】。アメリカの大学で映画制作について学び、24歳で日本に戻ってきてから10年間東京の映像制作会社でテレビ番組の制作等に携わっていました。

熊本地震直前、数週間の予定で阿蘇市一の宮町にある実家に帰省していたとき、熊本地震に遭いました。中島さんは、阿蘇神社の倒壊を目の当たりにし、この被災状況を多くの人に知ってもらい、復旧を支援・後押ししてもらいたいという思いから、東京での仕事を辞め、阿蘇市一の宮町に移住し、ボランティアで復旧の過程を動画で撮影、編集し、公開・発信し続けています（阿蘇神社の公式ホームページの「動画ライブラリー」から視聴することができます。）。

例えば、楼門は重要指定文化財であるため、その復旧方法は「復元」になるそうです。そのため、倒壊した楼門の部材を、一つ一つ丁寧に解体し、整理して格納した後、その部材を用いて復元していくそうですが、動画だからこそ、その一連の作業における過程、技術を、動きをもって記録化できています。また、復元にかける神社、職人さんたちの思い、近隣の方たちの阿蘇神社復旧に期待する声まで、臨場感をもって記録化、発信することができているそうです。

中島さんによれば、阪神淡路大震災でも神社仏閣が被災したが、その復旧過程は静止画での記録しかされていなかったそうです。中島さんは、動画での記録化は、今後、同じように災害により神社仏閣が被災した場合の参考にして欲しいという思いもあり、現在も動画を撮り続けているとのことでしたが、「一個人での活動にも限界があり、今後は、行政等が積極的に記録化して発信し続けることが重要だ。」と提言されていました。



【写真3-3】中島昌彦さん

## 3 「あか牛」

この阿蘇地域を中心に飼育されている名産品が「あか牛」です。熊本で誕生した和牛の一つである褐毛和種で、地元では「あか牛」と呼ばれていました。柔らかい赤身肉に、ほどよい脂肪分が特徴的です。全国の7割にあたる1万4500頭が熊本県で生産されています。

この「あか牛」のうち、①肉質等級2以上の褐毛和種の牛肉、②12か月以上肥育を行った最長かつ最終飼養地が熊本県内、③去勢及び未經産雌牛であることの品質基準を満たしたものについて、「くまもとあか牛」として、平成30年9月、地理的表示（GI）登録されました（登録番号67）。

【写真3-4】は、スライスしたあか牛を軽く炙って、アツアツのご飯の上に載せた「あか牛丼」です。温泉卵を崩しながら薬味と一緒に食べると、また美味です。



【写真3-4】あか牛丼

## 第4 「馬刺し」と被災した馬肉加工卸売会社

### 1 馬刺しとは

熊本を代表する特産品が馬肉を薄くスライスした「馬刺し」（馬肉の刺身）で、その色合いから桜肉と呼ばれることもあります。馬肉は、現在では唯一、生食が可能な肉です。

霜降り、赤身、ロース、ヒレ、コウネ（鬣の付け根付近の部位）、フタエゴ（肩からバラにかけて広がる部分で、赤身を脂身が挟んでいる）等様々な部位が食されています。おろしショウガ、おろしニンニク、刻みネギなどを薬味にして、醤油につけて食べるのが一般的です。臭みがなく、さっぱりとした食感です。

熊本県は国内における畜後の馬肉生産量が4割を占めており、馬肉文化が根付いている地域です。お祝い事等に食することが多いですが、熊本市内の飲食店では、馬刺しを定番メニューとして提供しているところが多く、県外の方も気軽に食することができます。



【写真4-1】馬刺し（提供：千興ファーム）

### 2 被災した馬肉卸販売会社

最大震度7を2度記録した熊本県益城町に隣接する熊本県御船町。ここに本社工場を有する馬肉加工・卸売業を営む「(株)千興ファーム」グループは、「本震」で工場が大規模半壊となり建て替えが必要となり【写真4-2】、隣接する畜舎も建て替えや全面改修を余儀なくされるなど甚大な被害を受けました。

同社は、全国で唯一、自社で馬の仕入・肥育及び馬肉の生産・加工・販売までを一貫して行う体



【写真4-2】地震直後の本社工場  
（提供：千興ファーム）

制を確立し、食肉業界では初となるS Q F 認証（安全で高品質な食品を保証する国際規格）を取得しているとのこと。生産量も、馬肉市場における国内シェアは約2割を占めており生産規模は国内トップです。

同社の菅浩光社長は「地震後2か月は本社工場の損壊により、馬肉のと畜・加工が全くできず、途方にくれました。外部施設を借りてと畜・加工を再開したものの、当初は従来の製造量の3割に留まり、非常に苦しい時期でしたが、その後、グループ補助金等を活用して平成30年7月に本社工場等を再築し【写真4-3】、少しずつ地震前の生産量に戻せるよう日々業務にあたっています。熊本名産の馬刺しを安定供給できるよう、従業員一同、日々精進していきたい。」としています【写真4-4】。



【写真4-3】再築した本社工場  
（提供：千興ファーム）



【写真4-4】菅浩光社長  
（提供：千興ファーム）

## 第5 ぜひ熊本へ

1 以上ご紹介したのは被災状況の一部に過ぎません。地震直後は熊本の様子がテレビの全国放送でも頻繁に取り上げられ続けましたが、1年、2年、3年と経つにつれて、その取り上げられ方は少なくなっています。しかし、だからといって、完全に復旧・復興したわけではありません。

2 私は、熊本地震のあった平成28年11月、はじめて東日本大震災の被災地である福島県、宮城県、岩手県へ行きました。震災から5年が経ってもなお被災の爪痕が残り、住宅再建のための造成工事等が行われている状況でした。被災地の復旧には時間がかかることを痛感し、それまで東日本大震災の被災のことをテレビや新聞等で報道されるときくらいにしか思い出さなかったことを反省しました。



【写真5-1】宮城県女川町（2018.11撮影）

熊本地震から3年経った今も、1万人近い方が仮設住居に入居され、熊本地震前の生活状況には戻ることができていません。自然災害による被災からの生活等の再建を目的として平成27年12月に策定された「自然災害による被災者の債務整理に関するガイドライン」は、熊本地震が実質初適用となり、現在まで、325名の方の債務整理が成立していますが（令和元年8月16日現在、熊本県弁護士会調べ）、現在もなお手続中の方もいらっしゃいます。



【写真5-2】 熊本県西原村の仮設住宅  
（熊本地震デジタルアーカイブ、提供者：西原村）

復旧、そしてその先の復興には時間がかかることを実感しつつ、熊本から、現在の状況、そして、復旧・復興に向けて前に進み続けていることを発信し続けなければいけないと強く思っています。

3 ご紹介した被災地にまつわる「美味しいもの」以外にも、熊本には、一文字のぐるぐる、熊本ラーメン、太平燕、スイカ（生産量全国1位）、トマト（生産量全国1位）、天草の海産物など多数の「美味しいもの」があります。

ぜひ熊本へお越しいただき、「美味しいもの」を食べつつ、復旧・復興に向けて前に進んでいる熊本をご覧頂ければ幸いです。熊本県営業部長兼しあわせ部長の「くまモン」も待っていますよ。

以上